

# 第5回 高2英語

## 総評

今回の試験では、リスニング、語句整序、和文英訳、自由英作文、長文読解といった多様な出題により、受験者の総合的な英語力を測ることを目的としている。今回の結果を見て、自分の得意な分野と苦手な分野を把握し、的を絞った学習計画を立てられるようにしたい。

また、総得点だけでなく、大問ごとの出来や、誤答の内容も把握してほしい。特に作文問題や、長文問題中の記述形式の問題などは、一朝一夕に得意になる分野ではないが、大学入試に向けて必ず実力をつけなければならない部分である。模範解答と解説をよく読み、自分の答案に足りなかった部分や工夫できる点を見つけるようにしよう。

## 問題別講評・採点基準

### 1 リスニング

リスニングでは必ず放送前に設問に目を通し、メモを取りながら音声を聞くようにしよう。

#### 問題A

(5) いずれのイラストも紛らわしいので説明をよく聞く必要があったが、よくできていた。誤答としてはcが多かった。単純だが方角の聞き取りを間違えるだけでこのようなミスにつながる。

#### 問題B

**Part 1** (4) 2つともできて与点した。(ア)は medical としたものが散見された。直前の be used to ~を「～に慣れる」という意味に解釈し、to 以下を名詞句にしようとしたものと思われるが、それではこの文全体の意味が放送内容に合わなくなってしまふ。(イ)は放送内容には含まれない語のため難しかったであろう。different では、放送文内の remote が持つ「距離の遠さ」の意味合いが出ない。

**Part 2** それぞれ、完全に書けて与点とした。

(ア) wearables 1語で wearable devices を指すことに気づかないと難しいだろう。このように、一般的に形容詞として使われる語が名詞的に扱われる場合もあることを覚えておくとよい。また、冒頭の to を聴き逃した答えも多かった。(イ) よくできていたが、make efforts の efforts を複数形にしてい

ない誤答が目立った。続く toward の t の音とつながって聴き取りにくいのが、make an effort という基本形を知っていれば気づけただろう。

## 2 語句整序・和文英訳

### 問題A 語句整序

英文中の整序問題で、日本語も与えられていない。前後の文脈に合わせて、与えられた語句から文を作り上げることができるかどうかを見た。

(1) green と ice の対比については理解できている答案も多かったが、as opposed to ~ (～と対立するものとしての) の語順で誤りが目立った。

(2) the size の位置の誤りが目立った。… times the size of ~ = … times as large as ~ (～の…倍の大きさの) は難易度の高い表現で差がついた。

(3) were to melt から始めた誤答が目立ったが、下線部の後の entirely とのつながりも考えておきたかった。また、倒置に気づけなかった答案も多かったため、解説で考え方を確認しておこう。

(4) この段落の内容をまとめた箇所。氷の厚さと年代、氷の層の並ぶ順番を理解して読めていたかがポイントだった。

(5) provide A with B (AにBを提供する) を使った誤答が目立った。知っている表現に飛びつかず、前後をきちんと読んで判断することが重要。

### 問題B 和文英訳

ビジネスのための英語学習をテーマにした和文からの出題。訳しやすい日本語に直してから英訳する姿勢を保ちつつ、基本語を用いて簡潔に表現できるようにしたい。減点された部分を必ず見直し、同じ間違いを繰り返さないようにしよう。

Ⓐ「英語に堪能になる」は比較的よくできていた。苦勞が見えたのは「活躍の場を広げる」で、expand the place where I can work などと直訳した答案が多かった。ここでの「場」とは、つまり「活動の範囲」や「担当する業務の種類」のことだと読み換えられると、真意が伝わりやすい訳になる。

Ⓑ「英語が通じる」は make oneself understood in English がよく使われる表現なので、覚えておくとよい。「会話ははずんだ」は the conversation was successful など、意味をきちんと理解した解答も多く見られた。

Ⓒ「Aが…すればするほど、Bは～する」、「…するのにな～すぎることはない」はともに和文英訳で問

われやすい表現だが、どちらもよく書けていた。

### 3 自由英作文

文法・語彙と内容・構成の2つの観点に分けて採点した。指定語数に対する不足・超過については、5点の減点。ただし、指定語数の半分(30語)未満のものについては、文法・語彙点を与えていない。

○文法・語彙点 ……10点

誤りの数に応じて、10点から0点のいずれかの点数をつけている。

○内容・構成点 ……10点

内容に応じて、10点、7点、4点、0点のいずれかの点数をつけている。以下のような答えは内容・構成点の減点対象となる。

- ・賛成・反対の理由の説得力が欠けるもの
- ・賛成・反対の論旨に一貫性がないもの

今回のテーマは、レストラン入店における年齢制限に対する賛否を問うものだった。よく見かけるテーマではなかったかもしれないが、レストランで子供連れの家族と居合わせた経験を踏まえれば、書きやすいテーマだったのではないだろうか。解答例・別解の他に、賛成例として「子供向けのメニューや椅子などを準備するのに手間やお金がかかる」、反対例として「子供連れで行くことができるレストランが少なくなると、子供連れでの外出が難しくなり、少子化につながる恐れがある」なども挙げられていた。一方で、「小さい子供はうるさいから」など、主観のみの主張でとどまっているものもあった。意見を述べる英作文では、自分とは異なる意見の人に対して説得するという視点を持って取り組みたい。理由を述べる際には、具体例やエピソードを挙げるなどして、読み手が納得できるような根拠を示すように心がけよう。

### 4 長文読解

物理学者である筆者が、男女同権主義団体から抗議を受けた際の出来事を描いたエッセイからの出題。筆者の妹と筆者の友人とのやりとりや、筆者の著書で扱われたエピソードなど、注意して読まない状況を読み間違いやすい箇所もあったと思われるが、筆者の最後の発言のオチを楽しんで読んでほしい内容である。

(4) 皮肉も含めて本文の流れが理解できているかどうかを試す問題。男女の対比はこのエッセイの核

となるころなので、わからなかった人は解説を読んで確認しておこう。

(5) 文頭の For を「～のために」「～にとって」と訳した答案が多かった。For 以下に women (do indeed) suffer from ~ という SV の形があることから、この For の役割を考えて解答したい問題だった。前後の流れや英文中の単語から何となく解釈するのではなく、文構造をきちんと解析して読む癖をつけよう。単語や表現については、まず presence (同席；出席) の誤訳が目立った。形容詞 present (出席している) と合わせて覚えよう。また、serve to … の訳脱も多かった。「(あなた方が出席したことが) …するのに役立つ」、「(あなた方が出席したおかげで) …することができる」などと訳すと自然な訳となる。

### 5 長文読解

古代からの人間と犬の関係について述べた文章。人間と犬との関係がどれほど古くから続いているか、他の動物との関係とどう異なるかという点を念頭に置いて読んでほしい。

(1) 挿入的に使われている分詞構文 buried ~ の構造を取り違えた誤訳が多く見られた。また、There lay ~ は There are ~ 構文とほぼ同じ捉え方ができるが、ここを誤訳したことによる主語の取り違えが非常に目立った。なお、puppy はそのまま「パピー」とはせずに「子犬」と日本語にすること。和訳問題や説明問題では、日本語として広く定着しているものを除いて、カタカナは用いないようにしましょう。

(2) 誤答が多かったのは b。ここは 1977 [S] is [V] ancient history [C] という構造であることを見抜くことがポイント。下線部以降の内容から、ancient history という比喩表現が意味する内容を的確に捉えよう。

(4) 「…変化した。」「～の進化を引き起こした。」のように、主語と動詞から成る‘文’として書いてしまった答案が目立った。直前の coevolution と同格関係にあることを確認しておこう。

(5) かなりの難問と言えよう。ここは“domesticating”(=引用符が付いている) が比喩であることも読み解く鍵となる。

## 第5回 高2数学

### 総評

今回は以下の分野から出題した。

「高次方程式」「三角関数」「場合の数・確率」  
「指数・対数関数」「微分積分」「ベクトル」  
「数列」「図形と方程式」

レベルとしては、易しいものから難しいものまで、幅広く出題した。標準レベルのものまでは全員に正解してほしかったが、残念ながら出来がよくない問題もあった。間違えた問題については、「解答」や「解説」を参考にしっかり復習しておこう。

また、答案の作り方についても意識しておくとうい。せっかくわかっているのに、理解していることが採点者に伝わらないと点数はもらえない。「解答」の記述も参考に、どのように書けばよいか、どの程度書けばよいかなどについて確認しておきたい。

### 問題別講評

#### 1 小問集合

(1) **A**では、解の公式より求めた $\alpha$ を3乗する際に計算ミスしたと思われる、虚数を答えたものが目立った。次数下げの手法を確認しておこう。また、**I**でも虚数を答えたものが散見された。整式の除法についてよく復習しておこう。

(2) **ウ**は比較的できていたが、**エ**は $x$ の係数 $\frac{2}{3}$ を無視した $\frac{\pi}{4}$ という誤答が目立った。

(3) **オ**はまずまずの出来だったが、**カ**では様々な誤答が見られた。2人が隣り合う場合の数は、隣り合う2人をひとまとめにして考えるのが定石。円順列の個数の求め方と合わせて確認しておこう。

(4) **キ**はできていた。**ク**については想定よりもできていたが、5という誤答が目立った。本問のような問題では、桁数や最高位の数字を求めたい数を、10の累乗を含む不等式で表すことがポイント。

#### 2 微分積分

積分法を利用して面積を求める問題。

(1) 方針は立っているものがほとんどであった。しかし、判別式の条件より $t$ の2次不等式を得たあ

とのミスが目立った。

(2) いわゆる「6分の1公式」が利用できることに気づいているものは多かった。しかし、その立式の際に $x^2$ の係数2を忘れたものが多かった。

(3) できていなかった。まずは面積を求める図形を正しく図示することを心がけよう。

#### 3 ベクトル

三角形と円を題材にしたベクトルの問題。

(1) できていた。

(2) (i) 点Dが直線AB上の点であることを、ベクトルを用いて表すところでもつまずいているものが目立った。ベクトルの垂直条件と合わせてしっかり復習しておこう。

(ii) 点Fが円Kの周上の点であるという条件をどのように利用するかが難しかったようである。直径に対する円周角が直角であることに着目した「解答」のほか、半径に着目した「別解C」のような解答も可能である。本問ではどちらの方針でも計算量は大差ないが、臨機応変に対応できるよう、様々な解法を学び取ってほしい。

#### 4 数列

2つの数列に共通する項に関する問題。

(1) できていた。

(2) 数列 $\{b_n\}$ の項を書き出すことで $b_n$ を5や10で割った余りの周期性に気づいたものは想定よりも多かった。しかし、その周期性を示すところまでできていたものは少なかった。

(3) (2)で余りの周期性に気づけたものについては、最後までできていたものが多かった。

#### 5 図形と方程式

領域に関する最大・最小問題。

(1) 領域の境界線は正しく図示できているものが多かった。しかし、その後、異なる部分を示しているものが目立った。

(2) (3)あまりできていなかった。このタイプの問題では、どんなときに最大値・最小値をとるか、図をかいて把握することがポイントである。図をかきながら方針が見えることも多いので、まったく手がつかなかった人も「解答」の図を見ながらもう一度考えてみよう。

**採点基準**

以下に配点の目安を記しますので、参考にしてください。なお、下記は目安であり、立式や計算の過程において、場合に応じて部分的に得点を与えることや、減点することがあります。

また、「解答」以外の方法で解いた場合などは、以下の基準に当てはまらないこともあります。

**1** (40点)

いずれも答に

- (1) **ア**:4点, **イ**:6点 ..... 10点
- (2) **ウ**:4点, **エ**:6点 ..... 10点
- (3) **オ**:4点, **カ**:6点 ..... 10点
- (4) **キ**:4点, **ク**:6点 ..... 10点

**2** (30点)

(1) (8点)

直線  $l$  の方程式を求めて ..... 3点  
答に ..... 5点

(2) (10点)

面積を  $t$  の式で表して ..... 6点  
面積の最大値 (答) に ..... 3点  
そのときの  $t$  の値 (答) に ..... 1点

(3) (12点)

直線  $m, n$  の方程式を求めて ..... 2点  
面積を求める式に ..... 7点  
答に ..... 3点

**3** (30点)

(1) (8点)

$\vec{a} \cdot \vec{b}$  を求める式に ..... 4点  
答に ..... 4点

(2) (i) (10点)

$\vec{OD}$  を実数  $s$  と  $\vec{a}, \vec{b}$  を用いて表して ..... 2点  
 $s$  の値を求めて ..... 4点  
答に ..... 各2点

(ii) (12点)

$\vec{OF}$  を実数  $t$  と  $\vec{a}, \vec{b}$  を用いて表して ..... 2点  
 $t$  の値を求めて ..... 6点  
答に ..... 4点

**4** (50点)

(1) (10点)

答に ..... 各5点

(2) (20点)

$b_1, b_2, b_3, b_4$  を5で割った余りを  
それぞれ求めて ..... 4点  
数列  $\{b_n\}$  の各項を5で割った余りが  
周期性をもつことを示して ..... 8点

答に ..... 8点

(3) (20点)

数列  $\{b_n\}$  の各項を5で割った余りが  
0以外のすべての値をとることに ..... 10点  
答に ..... 10点

**5** (50点)

(1) (10点)

領域  $D$  の境界となる図形を図示して ..... 6点  
答に ..... 4点

(2) (i) (15点)

$a$  が最大値をとる状況を説明して ..... 5点  
 $a$  が最小値をとる状況を説明して ..... 5点  
答に ..... 5点

(ii) (25点)

正しく場合分けができて ..... 5点  
 $k \geq 3$  のとき,

$b$  が最小値をとる状況を説明して ..... 3点  
 $k \geq 3$  のとき,  $b$  の最小値 (答) を求めて ..... 2点  
 $1 < k < 3$  のとき,

$b$  が最小値をとる状況を説明して ..... 3点  
 $1 < k < 3$  のとき,  
 $b$  の最小値 (答) を求めて ..... 2点

$-\sqrt{3} \leq k \leq 1$  のとき,  
 $b$  の最小値 (答) を求めて ..... 5点

$k < -\sqrt{3}$  のとき,  
 $b$  が最小値をとる状況を説明して ..... 3点

$k < -\sqrt{3}$  のとき,  
 $b$  の最小値 (答) を求めて ..... 2点

総評

記述問題を白答にしている答案も見られたが、解答欄をなんとか埋めようと努力している様子がかうかがえる答案が多かった。時間制限の厳しい模試ではなかなか納得のいく解答を作り上げることは難しいので、復習する際には、時間を気にせずに丁寧に解答を作ってみることが大切だ。古文・漢文は全訳や書き下しを自分で作り、内容を理解したうえで、再度問題に取り組むとよい。

問題別講評・採点基準

一

一 熟語は、一字でも誤りを含んでいたら不可。全問正解できている答案は少なく、特に「卑近」を誤るものが目立った。しっかりと復習しておこう。

二 [採点基準]

「人文学的研究は、a文化や社会の抱える公的な問題 bとも関係づけて人間を広く捉えるべきものなのに、c研究者の私的な好奇心に発し、dその好奇心を満たせば十分なものと見なされてしまうということ」を押さええて 14点

\* a c部各5点、b d部各2点。

〈人文学的研究は公的であるべき〉〈研究者の私的

な好奇心にとどまってしまう〉という大枠は押さえられているものが多かった。「人文学的研究が、個人的な嗜好の問題に還元されてしまう」という傍線部の構造を意識して、「研究者の私的な関心から発し、その枠内にとどまるものとなってしまう」という形でまとめることができているかどうかで差がついた。

三 誤答では「それと同様」が目立った。これは筆者の考える学問のあるべき姿を述べた箇所であり、設問で問われている〈学問の世界で勝負する専門的研究のあり方〉とは異なる。「そもそも」を抜き出すものもあつたが、この箇所は具体的な説明としては不十分。解説を読み、考え方を押さえおこう。

四 誤答で目立ったのは才。問題文を通して筆者が問題意識を抱いているのは、〈人文学における専門的研究〉が〈研究者の私的な好奇心のために行われてしまう〉点であり、研究の結果ではなく出発点||目的に対してであることを押さえよう。

五 [採点基準]

「a社会を支える価値を b疑い、問い直し、新たに創造することを目的とする学問として人文学を捉えれば、cその「価値」の問題も、d研究者が私的な関心事から脱却しない限り探究できない(c)公的なものとして位置づけられる」という点を押さええて 16点

\* a d部各3点、b部6点、c部4点。

傍線部の前から、「価値」を問い、観察し、分析

し、批判し、創造していく」「研究の『プライベート化』といったキーワードに着目できている答案が多かった。さらに得点を伸ばすためには、設問の問いかけに対応する文構造になるように解答を組み立てる必要がある。解説をよく読んで復習しておこう。

六 誤答はさまざまな選択肢に分散した。「適切でないもの」を選ぶ点に注意し、丁寧に各選択肢を検討しよう。

二

一 a「見切り発車」はよくできていた。

b「水をさし」はウ「受け入れようとせずに拒絶し」・エ「客観的な意見を述べて混乱させ」を選んだ人が若干いた。漢字では「水を差す」と表記し、「水を入れる・水を掛ける」が原義。つまり〈ちようどいいところに余計なものを入れて、だいなしにする〉イメージである。エは多少紛らわしいが、「客観的な意見」にはマイナスのイメージが乏しく、不適切。

c「浅ましい」は、エ「近視眼的で、思慮が足りない」を選んだ人が多かった。傍線部を含む一文の冒頭にある「それ」は、直前の文の「彼が私と同じ場所にいるという思い」を指す。これは、「自分の能力の境界線を勝手に引き、あっさり」と(画家になる夢を)諦めてしまった「私」の、「嫉妬心にも似た、一種の羨望から来る感情によるもの」と考えられ、傍線部に続く激しい「自己嫌悪」の吐露(特に「私はどこかで彼の挫折を願っていたのか」の一文)か

らも、単に「思慮の足りなさを悔いている」のではなく、自分の下劣さに対する自責の念と考えたほうがよい。

## 二 「採点基準」

「a 彼が」 b 「一般的な男性よりも」 c 急激に、d 父親になるのだという自覚を c 自分の中に目覚めさせていったということ」を押さえて—— 10 点

\* a 部 1 点、b、d 部各 3 点。

全体的によくできていたが、主語の「彼」に当たる言葉がないなど、説明としてのまとまりを欠く答案も多い。また、「意識の上昇カーブが大きい」を「自覚が強い」といった表現で説明した答案も散見されるが、「女性は『瞬間的』との対比からも、ここは〈強さ〉ではなく〈速さ〉のことをいっている。

三 イオと答えた人が少数おり、確かに微妙な選択肢が並んでいるが、「明らかに含まれない」と断定できる選択肢は、ウ「彼が『私』と子供を選んだことを後悔していて、いつかその気持ち爆発するのではないかという不安」だけである。

## 四 「採点基準」

「a 彼は、二つのことを並行してできる性質ではなかった」ので、b 講師をしながら絵の制作を続けることは諦めて、c 講師の仕事だけに集中する状況になった」を押さえて—— 12 点

\* a 部 4 点、b 部 6 点、c 部 2 点。

方向としては正しい答案が多いが、「慣用句の意味

を踏まえて」という条件が難しかったのか、まとまりの悪い説明をしている答案が多い。慣用句の説明をしながら、そこにこの文脈における意味を含ませることを考えれば、説明しやすかったはず。

五 一の c 「浅ましい考え」と連動した心情を問う設問だったが、こちらはよくできていた。イ・エの誤答も少数散見されるが、そこまでの内容は本文から読み取れない。

六 オはほとんどの人が正解できていたが、エの代わりアを選択した人が若干いる。前向きになったり後ろ向きになったり繰り返す「私」の揺れる心情を、逆接の多用によって表現していることを読み取りたい。また、エの「あらゆる色」には、「希望」の色も含まれていることを見逃さないように。

表現に関する問題は、選択肢の内容と本文の内容を比較することが意外と難しい。選択肢のどの部分が不適切なのかを確実に見抜けるように、十分な練習を積んでほしい。

## 三

一 a 誤答はカ「尊敬の助動詞」が多かったが、尊敬の「る」は未然形に接続するので、その場合は「たまは・れば」となる。

b 誤答はイ「完了の助動詞」エ「受身の助動詞」に割れた。ラ行下二段活用動詞の活用語尾「るる」の形を覚えておこう。

c 誤答は予想通りオ「使役の助動詞」に集中したが、「使役」とすると〈私に〉わからせてくださいとなり、意味が通らない。

d 誤答はク「形容詞の一部」が多く、キ「動詞の一部」も散見されたが、「はべりな」は「はべり+な」の二語である。形容詞や動詞の活用表からも一度復習してほしい。

二 x 比較的よくできていた。誤答はウに集中したが、「できなさらない」という敬語に当たる部分が傍線部にはない。なお、「言ひ尽くす」は〈全部言う・最後まで言う〉の意。

y こちらは難しかったようで、誤答がイオオに分散した。確かに紛らわしいが、〈平安貴族の姫君はたいてい女房たちと生活している〉という古典常識を覚えておきたい。

## 三 「採点基準」

「a 狭衣中将の、b 『伊勢物語』の中で妹に恋心を抱いた人物と同様に、c 妹同然の源氏の宮を恋慕っている心情」を押さえて—— 10 点

\* a 部 2 点、b c 部各 4 点。

「昔の跡」を〈旧跡〉のようにとらえた人が散見されるが、実際の〈場所〉のことではなく、昔の物語の〈内容〉のことという。また、ここは「説明」問題なのに、口語訳をした人がいる。設問の指示は注意して読んでほしい。

四 「掛詞」「縁語」の意味を知らない人が多かった

ようで、Aを正しく押さえられた人は半教程度、B  
Cを二つとも押さえられた人は三割程度。設問にあ  
る説明文の「……の○と△は掛詞、※と\*は縁語」  
という説明形式を覚えておくと、今後同じような出  
題がされた場合に対応しやすい。

#### 五 「採点基準」

「a急に bあなたが私によそよそしくなるのは、  
cかえって d周りの者には e不審に d見えま  
す fでしょう」と口語訳して——10点  
\* a d e 部各1点、b 部3点、c f 部各2点。

こちらは「口語訳」問題だが、説明している人が  
いる。また、空欄のままの解答も目立つ。確かに難  
しい問題だが、状況がよくわからない場合でも、傍  
線部の単語を丁寧に現代語に置き換えて書いておけ  
ば、何点か部分点をもらえることもあるので、最後  
まで諦めずに解答してほしい。

六 誤答はイに集中した。ここは主語が省略された  
まま人物の行動が次々と入れ替わって書かれている  
ためわかりにくいが一貫して、泣いているのは「狭  
衣」で、怯えているのが「源氏の宮」である。

#### 四

一 完答できているものは少なかった。特にc・d  
の「目」の読み分けは難しかっただろう。文脈を踏  
まえて最適な読みが選べるように、解説をよく読ん  
で復習しよう。

#### 二 「採点基準」

「a将に別れんとして b之に謂ひて曰はく」と書  
き下して——5点  
\* a 部3点、b 部2点。

「将別二謂之曰」で切れ目がある文構造であるこ  
とを読み取れなかったものが目立った。また、再読  
文字「将に……んとす」を正しく読めていないもの  
も見受けられた。基本事項なのでしっかり押さえ  
ておいてほしい。

#### 三 「採点基準」

「a重ねて b身に余る厚遇をいただいている c  
ならば d他人にねたまれる eことになろう」と  
訳して——9点  
\* a c e 部各1点、b d 部各3点。

「為人所嫉」を「人に嫉妬される」と受身でとら  
えることはできている答案が多かったが、「叨扱過分」  
の訳出は難しかったようだ。国司に任命された弟に  
兄が問いかけている言葉であることを踏まえて、「過  
分」の内容をとらえたい。

#### 四 「採点基準」

「a他人の悪意ある行為を受けたときに、b何も言  
わずにそれを処理するだけだと、cかえって相手の  
感情を逆なでし、d相手の悪意を増幅させてしまう  
おそれがあるから」を押さえ——12点  
\* a b c d 部各3点。

\* 「他人に唾を吐きかけられる」という具体例に沿

って説明したものも可。

難度の高い設問だったが、自分なりに解答欄を埋  
めようと努力している答案が多く見られた。問題文  
に書かれていない内容まで作って付け加えてしまっ  
ているものも見受けられたが、まずは直前の「弟の  
返答」の内容を押さえることを意識して解答を作成  
しよう。

五 誤答は分散したが、イ・オが目立った。選択肢  
はいずれもつともらしく、難度が高かったと思わ  
れるが、「人の恨みを買うようなことをしない」(無  
為自然の態度でものごとを受け流す)という師徳の  
態度は、「先人の髪膚を全うする」ための手段に過ぎ  
ないことを押さえよう。